

建学の精神とキリスト教 - 501 【第6回】

新島襄の教育観・人間観（1）

同志社大学 神学部教授
良心学研究センター長
小原 克博

1

Overview

1. 新島襄の教育観
2. 新島襄と良心
3. 今回の課題

2

1

新島襄の教育観

3

自由教育

小生畢生の目的は、**自由教育**、**自治教会**、両者併行、国家万歳、小生の心情、ご洞察下さるべく候。

（「横田安止宛」手紙、1889年、『新島襄の手紙』301頁）

👉 『新島襄365』 【3月12日】

4

自由と道徳

ただ職人のみを出来し、**道徳の教え立たざれば**

民権を拡張し、人民をして自由を得せしめば

道徳の教え立たざれば

人を罵詈するの民増す。(中略)

自由を得るも又これを我儘わがままに用ゆるの憂いあり。(中略) 貴重の民権を下して下等の我儘と混ざるの憂いあれば、国の幸福期し難く、我儘起り国家の滅亡の基礎となるも計り難し。

(「愛人論」作成年月日不詳、『新島襄教育宗教論集』293頁) ☞ 『新島襄365』【9月2日】

5

智徳併行教育

- ・社会改良の基は**智徳併行**の教育を除きて、何ぞ。故に教育のごときは、基督教と分離すべからざるものにして、文明の車の両輪なり。(講演草稿「梅花女学校における女子教育」、『新島襄教育宗教論集』135頁) ☞ 『新島襄365』【1月10日】
- ・一、教育の目的は、**智徳併行**にして人物養成の一点とどに止まれり。人才養成にあらず、人物養成の意なり。(「徳富猪一郎宛」手紙、1888年、『新島襄の手紙』247頁) ☞ 『新島襄365』【2月20日】

7

真誠の自由

同志社教育の目的は、その神学、政治、文学、科学等に従事するにかかわらず、皆、精神、活力あり、**真誠の自由**を愛し、もって邦家ほうかに尽くすべき人物を養成するを努むべき事。(「遺言」1890年、『新島襄自伝』401頁)

☞ 『新島襄365』【3月24日】

6

諸君よ、人一人は大切なり

諸君と共に今、往事を追想して記念したきは、昨年、我れ不在中、同志社を放逐ほうちくせられたりし人々の事なり。

真に彼らのたために涙を流さざるを得ず。彼らは或いは真道を聞き、真の学問をなせし人々なれども、遂に放逐せらるるの事をなしたり。**諸君よ、人一人は大切なり。一人は大切なり。**

(「同志社創立十周年記念講演」1885年、『新島襄教育宗教論集』112頁) ☞ 『新島襄365』【12月3日】

8

学生観

もし私がもう一度教えることがあれば、クラスの中でもっともできない学生にとくに注意を払いたい。それができれば、私は教師として成功できると確信する。

（随想「異国で想う」1885年、『新島襄自伝』381頁）

👉 『新島襄365』【11月19日】

9

地方教育論

教育に付いて論ずるに何の差別もあるまじきに、何故地方教育論を為すかを問えば、答えて日わん、我国の教育の如きは東京、中央に集まり、何学も中央に行かねば学問のなき事に成行き、又中央の地に於て受ける所の悪風は、生徒を腐敗せしむるに□し。これを薰陶し、これを養生するに、勢力の乏しき事あれば、今日の勢いを以て論ずれば**真正の教育を地方に布くに如かず**。（中略）海陸軍を増すは弥末の浅論なり。（「地方教育論」1882年、『新島襄 教育宗教論集』85-86頁）👉 『新島襄365』

【8月2日】

11

女子教育

終りに臨み、予はこの校の女生徒に向かい、一言なき能わず。今兄弟方ご尽力によりこの校の設けありしは、他なし、善良なる、有益なる婦女子の輩出して、社会の塩となり、光となられん事なり。また有志諸君の己れの財を吝まず、これを投じてこの拳を助けられしも、他なし、女子の改良を望みて社会の改良を計らるる為ならん。（講演草稿「梅花女学校における女子教育」年代不詳、『新島襄教育宗教論集』137頁）

👉 『新島襄365』【1月13日】

10

地方に奉仕する謙虚な人の育成

卒業の上は一通りの教育を受けたる人となり、地方にまいり、（中略）人々にもよき手本を示し、学者たる者は自ら尊大にあり自ら先生となるにあらずして、却って身を社会の犠牲となし、社会の進歩を計るの人を養成せば、我が国何ぞ振るわざる、我が民権の起きざるを憂えん。（「地方教育論」1882年、『新島襄 教育宗教論集』86頁）

👉 『新島襄365』【8月5日】

12

2

新島襄と良心

13

キリスト教

良心とは？

世俗社会（近代的価値）

15

新島の conscience との出会いの 歴史的背景

- 19世紀後半の米国は道徳哲学（moral philosophy）全盛の時代
- それ以前の時代のように価値の中心を聖書や教会に置くのではなく、「良心」に置くようになっていた（社会の世俗化）。
- 新島はアメリカで conscience と出会い、それを「体験」した。新島の場合、それはキリスト教信仰と結びついていた。

14

良心を手腕に運用するの人物

かくのごとくにして同志社は設立したり。然れどもその目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、その徳性を涵養し、その品行を高尚ならしめ、その精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂良心いわゆるを手腕に運用するの人物を出ださんことを勉めたりき。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

👉 『新島襄365』【1月15日】

16

一国の良心

一国を維持するは、決して二、三、英雄の力にあらず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざるべからず。これらの人民は**一国の良心**とも謂うべき人々なり。而して吾人は即ち、この**一国の良心**とも謂うべき人々を養成せんと欲す。（「同志社大学設立の旨意」1888年）

👉 『新島襄365』【1月27日】

17

横田安止宛ての手紙

動くも目的のため、また、忍びて待つも計画のため。今日もなお、待つの有様なるも、今となりては、ただ待つのみならず、農夫が田畑に寒肥かんごえをかくるがごとく、他日、収穫を得るだけの準備は、だいぶ致し置き申し候。

政事上の実況は、実に実着なる真面目まじめなる男児の乏しきを覚え、ますます良心の全身に充満したる丈夫の起こり来たらん事を望んで止まざるなり。（「横田安止宛」手紙、1889年、『新島襄の手紙』300頁）

👉 『新島襄365』【3月20日】

19

良心碑

良心の全身に充満したる丈夫ますらおの起り来たらん事を

- 横田安止宛ての手紙（1889年）より抜粋（『新島襄の手紙』300頁）。
- 新島永眠50周年の1940年11月29日（創立記念日）に建てられた。軍部の圧力を交わすため「良心」を掲げたという面もある。



18

コンシヨンスと良心の違い

今日些少の障碍または少しく**コンシヨンス**（conscience 良心いた）を傷むる等の事のために、国家の大鴻益こうえきとなるべき伝道に損失を与えしむるの時にあらず。

（「小崎弘道宛」手紙、1880年、『新島襄の手紙』157頁）

👉 『新島襄365』【7月3日】

20

良心と真理

生のごときは日暮れて途遠く、なお克く
驚馬千里を駆くる能わずといえども、た
だただ我が良心を真理に照準して使用
し、天より賦与するところの力を竭くし
て一生を終わらんと欲するのみ。

(「徳富猪一郎宛」手紙、1882年、『新
島襄の手紙』167頁) ➡ 『新島襄365』
【8月7日】

21

新島襄の遺言 (1890年)

- 同志社においては、**倜儻不羈**なる書生を圧束せず、努
めてその本性に従い、これを順導し、もって天下の
人物を養成すべき事。

(「遺言 (大磯)」1890年、『新島襄自伝』401頁)
➡ 『新島襄365』【3月26日】

- 同志社は隆なるに従い、機械的に流るるの恐れあ
り。切にこれを戒慎すべき事。(「遺言 (大磯)」
1890年、『新島襄自伝』401頁)

➡ 『新島襄365』【3月27日】

23

良心と自由

智識、財産、**自由**、**良心**の働きを養生する
事。この内一も欠くべからざる事、恰も卓
の四脚あるが如し。

(演説草稿「文明を組成するの四大元素」
1882年) ➡ 『新島襄365』【7月31日】

新島にとって良心はキリスト教や
自由と一体的なものであった。

22

冒険的生涯

良心とは？

倜儻不羈

24

3 今回の課題（600～800字）

- ・ 今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。
- ・ 『新島襄365』【7月1日】～【7月31日】を読み、もっとも関心をひかれた日付を《二つ》あげ、それぞれ、その理由を述べてください。